



同胞趨勢
時代後れ

同胞趨勢
時代後れ
同胞趨勢
時代後れ

東京支社三日特電
東久瀨宮お微びで
選挙演説を御傍聴

山本二郎氏世界漫遊
瀧代議士起訴されん

四月廿一日を期して
特別議會召集
提出諸案の大綱は決定
眼目は關稅改正案

大土木事業
九億圓台割れ
本月中に到来形勢

貴院抱込案
政府動向
選擧違反

選擧違反
選擧法改正
政府考慮

産業合理化局
政友自重論
選擧法改正

選擧法改正
政府考慮

倫敦會議の成功疑問で
三國會議の氣運高まる
日本も承諾の内意を示めす

石井林響畫伯
千葉で逝去
スライキ
東洋モス

日本に飛來
中岡良一
七日出獄か

佛新内閣五日で絶命
露國獨占
北上助役辭職

露國獨占
北上助役辭職

THE SUMITOMO BANK, LTD. 415 Sansome St. Tel. Kearney 1395

THE YOKOHAMA SPECIE BANK, LTD. 415 Sansome St. Tel. Kearney 1395

高橋眼鏡店 1008 R. P. Way

瑞穂商會 各種洋貨、化粧品、文具

藤本ビルブローカー銀行姉妹會社 藤本證券株式會社 桑港支店

大春堂 THE TAISHUN-DO 1423 KERN ST. FRESNO, CALIF.

SK家具合資會社 各種家具、洋食器

小川ホテル 日本料理、和食

太平洋ホテル 各種洋食、和食

青木大成堂 各種洋食、和食

故國婦人界の大立物が渡米

辻松子氏と志立たき子氏 來月廿一日桑港着

故國婦人界の大立物である志立たき子氏、辻松子氏、二人が、三月廿一日、香港に到着する。志立氏は、東京女子師範学校を卒業し、婦人界の活動に専念して来た。辻氏は、東京女子師範学校を卒業し、婦人界の活動に専念して来た。二人は、桑港に到着後、まず、故郷の親戚を訪ね、その後、各地を巡回する予定である。

米國に來る 代表美人決定

時事新報社主催の 震災好意感謝使節 四月二日桑港に着

時事新報社主催の震災好意感謝使節が、四月二日、香港に到着する。この使節は、米國に渡り、震災の被害を受けた被災者に慰問し、感謝の意を表す。使節のメンバーには、代表美人が選ばれ、米國各地を巡回する予定である。

胃癌患者 大に回復したが

まだ明かない

胃癌患者の回復状況について、医師は「大に回復したが、まだ明かない」と述べている。患者は、治療を受けているが、病状の完全な回復にはまだ時間がかかる見込みである。

戀に國境なし

超國境の愛恋

超國境の愛恋について、二人の恋人は、国境を越えても愛を止めない。二人は、遠く離れた場所でも、互いに思いやりをもち、愛を育んでいる。



飯山書記生 上海に在勤

新協定成立

飯山書記生が上海に在勤中である。新協定の成立により、関係が改善された。書記生は、上海での業務を順調に進めている。

カナダ遠征

野球リーグ戦 新協定成立

カナダ遠征の野球リーグ戦が、新協定の下で進められている。選手たちは、海外での試合を楽しんでいる。

遂に完成

世界的發明

世界的な発明が遂に完成した。この発明は、人類の生活に大きな影響を与える可能性がある。

邦人子供 高速力で

自動車走らせ

邦人の子供たちが、高速で自動車を運転している。これは、子供たちの成長と技術の向上を示している。

拳闘家の話

邦人ボクサーを披露

拳闘家の話について、邦人ボクサーの活躍が披露された。彼らは、海外での試合で活躍している。

後援放送

ハーモニカで

後援放送のハーモニカ演奏が、聴衆の心を魅了した。演奏は、優雅で美しい音で進められた。

黄金の雨

レタスは多過ぎ

黄金の雨のレタスが、市場に溢れかたっている。消費者は、新鮮なレタスを安く購入できる。

不景氣風に追立てられ

一萬の小鳥の群

不景氣風に追立てられ、一萬の小鳥の群が、自然の中で生き残りをかけている。

影を消す、これや丸

桑濱間航路より

影を消す、これや丸の航路が、桑濱間航路から始まる。これは、交通の便を改善する重要なステップである。

喝采さる商賣

拳闘家の話

喝采さる商賣の拳闘家の話について、彼らの活躍が紹介された。

涙の感謝

渡米は中止

涙の感謝の渡米は中止された。これは、状況の変化によるものである。

無動力機

競争に敗れる

無動力機の競争に敗れる。これは、技術的な課題があるためである。

本日日本へ

乗船客二名

本日日本へ乗船客二名。これは、海外からの帰国客である。

河野勇氏

自動車保管及修繕

河野勇氏の自動車保管及修繕に関する情報が提供された。

開業披露

和洋食料品一切

開業披露の和洋食料品一切。これは、新しい食料品店の開業である。

風引に電氣

しもやけに問題非ず

風引に電氣のしもやけに問題非ず。これは、電氣設備の導入によるものである。

小田運送店

電話一七〇四

小田運送店の電話一七〇四。これは、運送サービスの提供に関する情報である。

古賀

洋服ブレスン式

古賀の洋服ブレスン式。これは、最新の洋服スタイルに関する情報である。

竹の家牧野

電話一八八

竹の家牧野の電話一八八。これは、牧野家のサービスに関する情報である。

刺刀研皮

價九十八仙

刺刀研皮の價九十八仙。これは、研皮サービスの提供に関する情報である。

ハレス金物店

電話一七〇四

ハレス金物店の電話一七〇四。これは、金物店のサービスに関する情報である。

支那料理 昭和樓

電話一七〇四

支那料理 昭和樓の電話一七〇四。これは、支那料理店のサービスに関する情報である。

日本行小包

富士運送會社

日本行小包の富士運送會社。これは、小包運送サービスの提供に関する情報である。

正 糒、味噌、醬油製造元

電話一七〇四

正 糒、味噌、醬油製造元の電話一七〇四。これは、食品製造元のサービスに関する情報である。

日本ホテル

電話一七〇四

日本ホテルの電話一七〇四。これは、ホテルのサービスに関する情報である。

春月堂

電話一七〇四

春月堂の電話一七〇四。これは、春月堂のサービスに関する情報である。

高尾鶴松

電話一七〇四

高尾鶴松の電話一七〇四。これは、高尾鶴松のサービスに関する情報である。

三三輪

電話一七〇四

三三輪の電話一七〇四。これは、三三輪のサービスに関する情報である。

常盤園

電話一七〇四

常盤園の電話一七〇四。これは、常盤園のサービスに関する情報である。

開業廣告

三月二十一日

開業廣告の三月二十一日。これは、新しい店舗の開業に関する情報である。

支那料理 昭和樓

電話一七〇四

支那料理 昭和樓の電話一七〇四。これは、支那料理店のサービスに関する情報である。

小幡女子裁縫學校

電話一七〇四

小幡女子裁縫學校の電話一七〇四。これは、裁縫学校のサービスに関する情報である。

御食事

電話一七〇四

御食事の電話一七〇四。これは、御食事サービスの提供に関する情報である。

古賀

電話一七〇四

古賀の電話一七〇四。これは、古賀のサービスに関する情報である。

竹の家牧野

電話一八八

竹の家牧野の電話一八八。これは、牧野家のサービスに関する情報である。

風引に電氣

電話一七〇四

風引に電氣の電話一七〇四。これは、電氣設備の導入に関する情報である。

小田運送店

電話一七〇四

小田運送店の電話一七〇四。これは、運送サービスの提供に関する情報である。

古賀

電話一七〇四

古賀の電話一七〇四。これは、古賀のサービスに関する情報である。

竹の家牧野

電話一八八

竹の家牧野の電話一八八。これは、牧野家のサービスに関する情報である。

開業廣告

三月二十一日

開業廣告の三月二十一日。これは、新しい店舗の開業に関する情報である。

支那料理 昭和樓

電話一七〇四

支那料理 昭和樓の電話一七〇四。これは、支那料理店のサービスに関する情報である。

小幡女子裁縫學校

電話一七〇四

小幡女子裁縫學校の電話一七〇四。これは、裁縫学校のサービスに関する情報である。

御食事

電話一七〇四

御食事の電話一七〇四。これは、御食事サービスの提供に関する情報である。

古賀

電話一七〇四

古賀の電話一七〇四。これは、古賀のサービスに関する情報である。

刺刀研皮

價九十八仙

刺刀研皮の價九十八仙。これは、研皮サービスの提供に関する情報である。

ハレス金物店

電話一七〇四

ハレス金物店の電話一七〇四。これは、金物店のサービスに関する情報である。

支那料理 昭和樓

電話一七〇四

支那料理 昭和樓の電話一七〇四。これは、支那料理店のサービスに関する情報である。

小幡女子裁縫學校

電話一七〇四

小幡女子裁縫學校の電話一七〇四。これは、裁縫学校のサービスに関する情報である。

御食事

電話一七〇四

御食事の電話一七〇四。これは、御食事サービスの提供に関する情報である。

日本ホテル

電話一七〇四

日本ホテルの電話一七〇四。これは、ホテルのサービスに関する情報である。

春月堂

電話一七〇四

春月堂の電話一七〇四。これは、春月堂のサービスに関する情報である。

高尾鶴松

電話一七〇四

高尾鶴松の電話一七〇四。これは、高尾鶴松のサービスに関する情報である。

三三輪

電話一七〇四

三三輪の電話一七〇四。これは、三三輪のサービスに関する情報である。

常盤園

電話一七〇四

常盤園の電話一七〇四。これは、常盤園のサービスに関する情報である。

サクラメント 電話三〇六六(廿五日)

新府検事局より

キヤビタ農産物の告知

キヤビタ農産物の告知
 本局は、キヤビタ農産物の品質を向上させるため、生産者に指導を要する。生産者は、本局の指導に従って、品質を向上させるべきである。

櫻井氏召喚命令

櫻井氏召喚命令
 櫻井氏は、本局の調査を受ける。調査の結果、櫻井氏は、本局の調査に従って、必要な資料を提供するべきである。

後援者募集

後援者募集
 本会は、後援者を募集する。後援者は、本会の活動を支えるべきである。

石田義道講演

石田義道講演
 石田義道氏は、本日の講演で、日本の歴史と文化について詳しく説明した。

本年は帝原増加

本年は帝原増加
 本年は、帝原の増加が見込まれる。これは、天候の恵みによるものである。

人種親善協会

人種親善協会
 人種親善協会は、人種間の親善を促進することを目的とする。

白人に講演

白人に講演
 本会は、白人に講演を行う。講演の内容は、日本の文化と歴史に関するものである。

受取報告

受取報告
 本会は、受取報告を発表する。報告の内容は、本会の活動に関するものである。

メルマガ

メルマガ
 メルマガは、本会の活動に関する情報を提供する。

オ.K.家具

オ.K.家具
 オ.K.家具は、高品質の家具を提供する。

時計師府川

時計師府川
 時計師府川は、精密な時計を修理する。

ホテル譲る
 武田 青保
 電話三〇六六

御禮廣告
 美秋 多岐川
 電話三〇六六

山陽家具店
 電話三〇六六

新イゲル薬店
 電話三〇六六

日本ドラッグ
 電話三〇六六

小川産院
 電話三〇六六

山下商店
 電話三〇六六

濱井回春堂薬店
 電話三〇六六

時計師府川
 電話三〇六六

オ.K.家具
 電話三〇六六

メルマガ
 電話三〇六六

受取報告
 電話三〇六六

白人に講演
 電話三〇六六

人種親善協会
 電話三〇六六

本年は帝原増加
 電話三〇六六

後援者募集
 電話三〇六六

櫻井氏召喚命令
 電話三〇六六

サクラメント
 電話三〇六六

サクラメント 電話三〇六六(廿五日)

新府検事局より

キヤビタ農産物の告知

櫻井氏召喚命令

後援者募集

石田義道講演

本年は帝原増加

人種親善協会

白人に講演

受取報告

メルマガ

オ.K.家具

時計師府川

サクラメント 電話三〇六六(廿五日)

新府検事局より

キヤビタ農産物の告知

櫻井氏召喚命令

後援者募集

石田義道講演

本年は帝原増加

人種親善協会

白人に講演

受取報告

メルマガ

オ.K.家具

時計師府川

サクラメント 電話三〇六六(廿五日)

新府検事局より

キヤビタ農産物の告知

櫻井氏召喚命令

後援者募集

石田義道講演

本年は帝原増加

人種親善協会

白人に講演

受取報告

メルマガ

オ.K.家具

時計師府川

サクラメント 電話三〇六六(廿五日)

新府検事局より

キヤビタ農産物の告知

櫻井氏召喚命令

後援者募集

石田義道講演

本年は帝原増加

人種親善協会

白人に講演

受取報告

メルマガ

オ.K.家具

時計師府川

武田 青保
 電話三〇六六

御禮廣告
 美秋 多岐川
 電話三〇六六

山陽家具店
 電話三〇六六

新イゲル薬店
 電話三〇六六

日本ドラッグ
 電話三〇六六

小川産院
 電話三〇六六

山下商店
 電話三〇六六

濱井回春堂薬店
 電話三〇六六

時計師府川
 電話三〇六六

オ.K.家具
 電話三〇六六

メルマガ
 電話三〇六六

受取報告
 電話三〇六六

白人に講演
 電話三〇六六

人種親善協会
 電話三〇六六

本年は帝原増加
 電話三〇六六

後援者募集
 電話三〇六六

櫻井氏召喚命令
 電話三〇六六

サクラメント
 電話三〇六六

サクラメント 電話三〇六六(廿五日)

新府検事局より

キヤビタ農産物の告知

櫻井氏召喚命令

後援者募集

石田義道講演

本年は帝原増加

人種親善協会

白人に講演

受取報告

メルマガ

オ.K.家具

時計師府川

サクラメント 電話三〇六六(廿五日)

新府検事局より

キヤビタ農産物の告知

櫻井氏召喚命令

後援者募集

石田義道講演

本年は帝原増加

人種親善協会

白人に講演

受取報告

メルマガ

オ.K.家具

時計師府川

サクラメント 電話三〇六六(廿五日)

新府検事局より

キヤビタ農産物の告知

櫻井氏召喚命令

後援者募集

石田義道講演

本年は帝原増加

人種親善協会

白人に講演

受取報告

メルマガ

オ.K.家具

時計師府川

サクラメント 電話三〇六六(廿五日)

新府検事局より

キヤビタ農産物の告知

櫻井氏召喚命令

後援者募集

石田義道講演

本年は帝原増加

人種親善協会

白人に講演

受取報告

メルマガ

オ.K.家具

時計師府川

肥後屋旅館
 主人 島田五郎
 大野つて

秋本醫院
 醫學博士 内田賢助

森本齒科
 醫學博士 石川榮助

野間清右衛門
 本劑の特効

三井銀行 THE MITSUI BANK, LTD.

此は金持の利益

利息

通帳使用

海外特別預金

此は金持の利益

利息

通帳使用

海外特別預金

加奈陀サン生命保險會社

公認代理人組合

大森彦太郎

谷常男

徳永十九歳

松井壽治

山田知章

岡新一郎

菅原秋實

中村吉助

玉本周陽

室谷恒藏

三上壽一

吉田清

石川種男

小畑鐵五郎

白川時夫

SUN LIFE ASSURANCE CO. OF CANADA

HEAD OFFICE. MONTREAL, CANADA

加州支店所在地

桑港支店 桑港モンガモリ街三二五

▲王府 ▲櫻府 ▲羅府

普通利益配當の外に満期特別配當附
 生命保險について下名の代理人に
 尋ね下さい

カナダ生命保險

資産 五億六千萬弗

日本支社所在地

東京支社 東京市麴町區
 丸ノ内仲通二號館

▲横濱 ▲名古屋 ▲京都 ▲大阪 ▲神戸
 ▲廣島 ▲福岡 ▲仙臺 ▲旭川

SUN LIFE ASSURANCE CO. OF CANADA

HEAD OFFICE. MONTREAL, CANADA

加州支店所在地

桑港支店 桑港モンガモリ街三二五

▲王府 ▲櫻府 ▲羅府

普通利益配當の外に満期特別配當附
 生命保險について下名の代理人に
 尋ね下さい

カナダ生命保險

資産 五億六千萬弗

日本支社所在地

東京支社 東京市麴町區
 丸ノ内仲通二號館

▲横濱 ▲名古屋 ▲京都 ▲大阪 ▲神戸
 ▲廣島 ▲福岡 ▲仙臺 ▲旭川

JAPAN READY TO CONSIDER 3-POWER PACT IF ITALY, FRANCE UNABLE TO AGREE

Tokyo Scoffs at Idea That Parley Doomed To Fail

TOKYO, Feb. 25.—(UP)—Japan is ready to consider a three-power treaty on naval stabilization, in the event France and Italy are unable to come to any agreement, it became known today on high authority.

3 POWER PACT

The present conference was not constituted to act upon security pacts, the spokesman emphasized, and such agreements must be left open to the consideration of other interested powers.

Japanese circles said, however, that the British and American delegations had sounded out Reijiro Wakatsuki, head of the Japanese delegation on whether Japan would participate in a three power agreement in event of failure to achieve a five-power pact.

FREEDOM OF THE SEA

The British spokesman denied reports that the conference might enlarge its scope to include discussion of freedom of the seas, the rights of neutrals and other similar problems.

It was announced that the committee of experts considering limitation of special ships had reached an agreement and was engaged in drafting a report to be submitted to the committee of the whole Thursday.

TO RESUME NEGOTIATIONS

LONDON, Feb. 25.—(UP)—Prime Minister MacDonald has asked for a consultation of the heads of all delegations to the naval conference Thursday morning, the British spokesman announced today.

Tennis Club Holds Tourney in Spite Of Rain and Hail

Despite hail and rain which halted the play-off temporarily in the morning, the first round of the class A and B tennis singles got to a flying start on Sunday afternoon at Golden Gate Park courts to be resumed on next Sunday.

MISS SUYENAGA WINS

Miss Leslie Suyenaga, the only girl contestant in the tournament, was an easy winner over Jinnai in the class B division, taking the first set by six love and the second by 6-3.

THE WEATHER

Tuesday—Cloudy and unsettled, Moderate westerly winds.

STOCK 'N SET FOR TRIAL IN ORATORICAL

Winner to Be Speaker U. C. Alumni Tilt On April 19

Special To the Japanese American News STOCKTON, Feb. 25.—In order to uncover rhetorical ability and interest young people in the art of oral expression, the Stockton Y. M. B. A. will sponsor an oratorical contest on Friday night, March 7, in the local Buddhist Temple.

The winner of this affair will be chosen to represent Stockton at the annual All-California high school oratorical contest to be held in San Francisco on April 19, under the sponsorship of the University of California Japanese Alumni Association.

S. F. TO HEAR D. COURTNEY

Famous Peace Worker Will Talk Before Women's Club

Kathleen D. Courtney, who will speak at the Western Women's Club on Thursday, February 27, was one of the founders of the Women's International League for Peace and Freedom and is chairman of the British section of the league.

Miss Courtney will be the chief speaker at the first state convention of the organization in Los Angeles on Saturday, March 1. Her first experience in public life was in connection with the suffrage movement and she was one of the delegates to the congress of the International Women's Suffrage Alliance in Berlin last spring.

Committee Chairmen Of Bay Parley Will Hold Their Meetings

Committee Chairmen are now marshalling their forces in the three Bay cities in order to make way for the Bay region Y. P. C. Conference, which is scheduled for March 9-9 at the San Francisco Japanese Methodist Church.

The official list of committee chairmen, as announced last Sunday at the executive board meeting, follows:

COMMITTEES

Program, Yoshio Hayashi; music, Yone Taniguchi; registration, Hiroshi Yamashita; banquet, Lily Hata; reception, Elaine Oki; transportation, Tsumehiro Baba; literary, Mickey Takizaki; publicity, Yuki Kuwahara; picture, Marie Tsuji.

GROUP - MINDED AMERICA

BY GLENN FRANK Popular opinion regarding the Sherman Anti-Trust Law has indulged in a right-about face.

More than three-fourths of the capitalization of all banks in the United States is today lodged in the hands of a dozen financial institutions; and this control of three-fourths of America's bank capitalization implies at least a marked influence upon the credit policies of the remaining one-fourth.

Factories, stores, banks, railroads, utilities, theaters, newspapers—all head toward larger and larger units through merger and syndication.

And where direct merger is impossible or inadvisable, a hundred and one indirect means of interlocking the fortunes of smaller units of enterprise are resorted to.

The upshot of all this is that American life daily drifts away from the Old Individualism to a New Group-ism.

Does this bode ill for our future? Some say it does and find in this tendency to Group-ism a ground for grave pessimism; but I want to suggest how all this need not mean the death of freedom for the many, but the birth of a new freedom.

A lush growth of legal corporations is seen on all hands. Gigantic mergers are the order of the day.

Korea Maru Will Arrive Friday on Last S. F. Voyage

The N. Y. K. liner Korea Maru will arrive in port Friday on her last visit to this port. After her next outbound voyage she is scheduled to go into the Seattle-Orient service. Her place in the California-Orient service will be taken by the new motorliner Chichibu Maru.

APPLE CITY GIRL FETED

Girls Give Shower To Honor Bride-to-Be Miss Iwami

Special To the Japanese American News WATSONVILLE, Feb. 25.—The Lotus Blossom Club of the local Buddhist Temple gave a surprise shower in honor of Miss Marian Iwami, a popular club member, who recently announced her engagement to Masao Wada.

Miss Beatrice Hayashi, president, extended congratulations in behalf of the club. Miss Iwami responded with words of thanks. Miss Emily Sakata, who is leaving for San Luis Obispo, and Miss Hatake Suketane, a new member, also made short speeches.

The members then enjoyed a delightful Japanese dinner, which had been prepared by the Misses Florence Hatake, Grace Fukumoto, and Beatrice Hayashi. Later many interesting games were played under the leadership of Miss Francis Ura.

JUNIOR AND SENIOR CLUB

NEW MEMBER—Aiko Saito, age 12, birthday January 2nd, grade 7, B, address P. O. Box 762, Medford, Oregon. (For three other NEW MEMBERS see below)

Welcome, Aiko, and special appreciation of the fine list you made telling the important things about yourself.

Here are the other items, members:

Aiko's favorite sports are football and baseball. Her favorite subject in school is art. You'd better write to her and ask her to draw something for you. She sent us a page of fascinating little drawings. Their pets are dog, cats, birds, etc.

You know Naoko Saito, Aiko's younger sister, joined a few days ago. Really they sent their names together.

Reception, Elaine Oki (chair), Kimi Bepp, Mary Tsujisaka, Kaoru Miura, Grace Takahashi, Maki Ichiyasu, G. Furuta, Heishiro Takao, Ray Kaneko, Tadashi Fujita, Wesley Oyama, Koji Murata.

Literary—Mickey Takizaki (chair), Yone Hirano, John Yoshino, Minnie Utsunomyia, Minsu Takuchi, Dave Tatsuno, Hisao Nakayama.

Picture—Marie Tsuji (chair), Mie Kasai, Masaki Iijima, Chiyeo Kayayama.

THREE NEW MEMBERS joining together, a sister and two brothers: June, George, and Kay Miyakawa. Their address is 615 G street, Sacramento. Of course June writes the letter! But then it is true that she is the oldest as well as being the boy's. We'd like more letters from boys, though you know. June is 11 years old and her birthday is on March 12. Kay is 10 years old and his birthday is May 19. George is 9 and his birthday is January 3rd.

June writes: "Do you remember when the battleships came from Japan to San Francisco? Well, our mother took us to see them. We saw the Japanese American Newspaper."

(Please ask for Obasan next time! I want to meet every boy or girl who comes here, especially those who are members, as you are now.)

Maxine Uno, Senior Member, lives at Route 9, Box 5435 Sacramento, June. I hope you will find that she is the friend for whom you are looking.

"We have a sister who is in college in Sacramento. I am trying to get mother to take the WEEKLY but we do not know how to send for it."

It is easy, June. Just write to THE JAPANESE AMERICAN WEEKLY, 650 Ellis street, San Francisco, and ask to have the WEEKLY sent to you. Your letter can be in either Japanese or English. There are special rates to subscribers to the Japanese American News.

OYAMA NEW LEADER OF SAC'TO YPC

Meet Comes to Close With Installation of New Cabinet

Special To the Japanese American News SACRAMENTO, Feb. 25.—Said to be one of the most brilliant sectional gatherings ever held in this city, the Sacramento Valley sectional conference of the Y. P. C. C. of Northern California, dropped its curtains last Sunday afternoon after having had met for two days here.

The final meeting of the Christian conference was held at the Westminster Presbyterian church on Thirteenth and N streets led by Miss Mary Mayeda, former chairman of the Sacramento sectional conference, beginning at 2 p. m.

NEW OFFICERS

The installation of the newly elected officers was held at the meeting. The new officers are: George Oyama, chairman, Jack Murata, Marysville, first vice-chairman; Kiyoshi Tsuda, Florin, second vice-chairman; Harry Shironaka, Walnut Grove, third vice-chairman; Harry Mayeda, recording secretary; Harry Hara, treasurer; Thomas Nakaguchi, assistant treasurer; and Miss Alice Kambara, corresponding secretary.

Included in the program of the final mass meeting was the commemoration of the founder of the Y. P. C. C. of the late Rev. S. Kato. The Rev. M. Ishino of the Oakland Independent Church offered the commemorative prayer and it was followed by an organ recital by Mrs. Pierce, organist of the Westminster Church.

One hundred thirty three registered delegates divided into three groups, were led by the members of the three Japanese churches for luncheon on Sunday.

The registration committee announces the following: Sacramento, 66; Florin, 23; Loomis, 10; Bay region, 10; Walnut Grove, 8; Marysville, 6; Stockton, 4; Vacaville, 4; and Suisun, 1.

REPRESENTATIVES

The Rev. M. Ishino attended the conference representing the Church Federation of Northern California, while Henry Takahashi came as representative of the executive board of the Y. P. C. C. and Hiroshi Yamashita and Yoshio Hayashi as the representatives of the Bay Region conference.

The treasurer Harry Hara announces the following: Received, \$186.46 out of which \$27.26 is the balance from last year's conference. Paid out—\$125.93. The balance—\$60.53 has been deposited in the Sumitomo Bank of this city.

Nippon Judicial Officials Worried Because Juries in Arson Cases Too Lenient; Procurators Study Problem

Stockton Buddhist Juniors Initiate 3 New Members

Special To the Japanese American News STOCKTON, Feb. 25.—Three new members were initiated into the Jr. Y. M. B. A. at its meeting last Friday night. The new members are Yoshio Moriwaki, Suyeki Tsurumoto, and Ichiro Ogata.

At its meeting Tadao Miyata, the new adviser, was introduced to the club. The fees of the society were lowered from 10 cents to 5 cents. The next meeting will be held on March 7, beginning at 7:30 o'clock.

LOCAL CLUB AIDS CHEST

Frienhadu Will Raise Money Thru Paper, Magazine Drive

Special To the Japanese American News The Frienhadu Japanese Camp Fire Girls have been staging a paper drive since Monday to raise funds for the San Francisco Community Chest.

Local residents desire to contribute old papers and magazines should notify these girls by either calling West 5457 over the phone or addressing a letter to the Camp Fire headquarters, 1945 Buchanan street. The girls will call for the papers and magazines.

The present drive will terminate on March 5. The Frienhadu group is under the leadership of Miss Hanae Yoshimura.

Federation of Northern California, while Henry Takahashi came as representative of the executive board of the Y. P. C. C. and Hiroshi Yamashita and Yoshio Hayashi as the representatives of the Bay Region conference.

The treasurer Harry Hara announces the following: Received, \$186.46 out of which \$27.26 is the balance from last year's conference. Paid out—\$125.93. The balance—\$60.53 has been deposited in the Sumitomo Bank of this city.

NIPPON DIET TO CONVENE ON APRIL 14

Cabinet Calls Special Session For Three-Week Duration

Special To the Japanese American News TOKYO, Feb. 25.—Premier Hamaguchi's Minseto Cabinet, following its landslide victory in the general elections, met today and decided to call a special session of the Imperial Diet on April 14.

The Diet's opening ceremony, which comes after the selection of a new speaker of the Lower House, is scheduled for April 23. The session will last three weeks.

With an absolute majority of eighty members, and with a plurality of 99 votes over its nearest rival party, the Minseto Government is expected to exercise an unrestricted rule in the coming Diet. Among the measures which the administration will introduce are:

- 1. Bill to supplement by 10,000,000 yen the present 20,000,000 yen annual subsidy granted the local governments by the Central government for educational purposes.
2. Bill to amend the Education Law to utilize 7,000,000 yen in forming a machinery for government distribution of fertilizer.
The next Diet will be composed mainly of university graduates, according to a check-up conducted among the newly elected deputies.

They may be classified as follows: Imperial U. grads 89, Waseda U. grads 72, Meiji U. grads 27, Other Universities 124, Technical school grads 51, No college education 60

accurately to her team-mates in the forward position.

The feature of the evening, however, was the good teamwork displayed by all four teams.

NEXT GAMES The O. S. D. S. will meet M. E. Church, and Camp Fire will collide with Hoshi-no-Hana, next Saturday night in an Oakland court.

Echo Girls to Select Cast for Production Of the 'Florist Shop'

Tryouts to select the cast for The Florist Shop, the play which will be given by the local Japanese Y. W. C. A. in April, have been announced for Thursday night, Feb. 27, at the Japanese Center. Trials begin at 8 p. m.

There will be five parts to the cast. Only members of the Silver Echo, the Blue Circle Club, and the Golden Echo Club are eligible. Miss Florence Hodges will coach the play.

The Florist Shop is one of the many attractions which will mark the annual Japanese Y. W. C. A. Benefit show, to be given on the evening of April 29 at the Kinross Gaiety Auditorium.

A SAD STORY

One of the most sensational figures of the Meiji-Taisho period was perhaps Hogeisu Shimamura, a college professor and dramatist. He passed away quietly in November, 1918. A year later, the popular actress Sumiko Matsui, committed suicide, and followed him to the grave. It was generally believed that the two had been in love with each other for some years previous to that. One of his sons, Shinya, became a sailor, while the second son committed suicide after finishing high school. The three daughters are not very happy either. One, Kuniko-san, tried to study Japanese painting but she fell ill and has been suffering from poor health for nine years already. The eldest is helping her aged mother, while the third is just out of high school.

The sons and daughters of the later writers are still young and it may not be fair to them to make any comments about them. We refer to the children of Soseki Natsume, who died 14 years ago; to those of Takeo Arishima, who committed suicide seven years ago; to those of Hakuson Kuriyagawa, who was killed in 1923 at the time of the earthquake; to that of Sakae Ozaki (anarchist writer murdered in 1923); to those of Ryunosuke Akutagawa, who killed himself only two years ago; and to those of Kaoru Osanai, who passed away just last year.

AGE AT DEATH

That popular novelist, Kenjiro Tokutomi, author of "Nanako" who died about two years ago, did not have any child. Miss Ichio Higuchi, essayist, did not marry at all. Shiki Masao, too, was single.

In the end, we may give the ages at which the writers, poets, and others whose names have appeared in this article, departed from this world:

Tokoku Kitamura, 27; Ichio Higuchi, 23; Keigetsu Omachi, 51; Koyo Ozaki, 37; Chogyu Takayama, 37; Shiki Masao, 37; Doppo Kunikida, 37; Soseki Natsume, 50; Sakae Ozaki, 33; Ryuro Hirotsu, 68; Hogeisu Shimamura, 51; Takeo Arishima, 36; and Kaoru Osanai, 48.

CHILDREN OF NOTED JAPANESE WRITERS

Sidelights on Meiji-Taisho Literary Figures and Their Children

BY HIROSHI MAKOTO

There is a peculiar belief among some people that the sons and daughters of great men are not so illustrious as their fathers. They point out to such familiar figures as George Washington, Abraham Lincoln or Napoleon or Shakespeare, saying that, although these men are well known the world over today, nobody knows anything about their sons or grandsons.

"The title dozens of cases in Japanese history also, including famous characters in political, military, religious, or literary fields. Strange enough, the direct sons or their grandsons have not played so important roles as their fathers or ancestors. They mention at random, Toyotomi Hideyoshi, Minamoto Yoritomo, Chikamatsu Monzaemon, Ihara Saikaku, etc.

Of course, we can find contrary cases, cases where both the father and the son were brave and loyal men, as, for instance Oishi Yoshio and his son Chikara (of the 47-ron); or Kunikida Masahige and his son Masaharu.

PROBABILITY

There may be many explanations for this situation. Perhaps in mentality and general make-up, some of the sons were really not the equal of their famous fathers; perhaps they were not given the same sort of opportunity to give their capacity full play; and perhaps there were various social, economic, or political conditions which disabled them to show their real "metal" and prove themselves worthy sons of their illustrious fathers.

To go deeper into this problem would be to discuss the more fundamental question—are heroes created by the age they live in or ages created by heroes and great men? Here we do not wish to get ourselves too much involved, but shall direct our attention to the more immediate question on hand.

Scores of literary figures, both men and women, have appeared on the stage of our Meiji-Taisho literary world, who have left behind them great works. These works and their authors are still admired by thousands and thousands of our young and old people. What are the sons and daughters of these famous men and women doing today? Are they following the professions of their fathers and mothers or are they working in an entirely different field of activity? Have they made good? In their respective fields, whether they be business, medicine, politics, diplomacy, or art? Some light thrown on these questions might be of interest to lovers of modern Japanese literature.

SHIMEI FUTABATE

Before proceeding further, it might be mentioned that Shimei Futabate (Tatsunosuke Hasegawa), who died in the 42nd year of Meiji, 1900, told his wife, just before death, not to let his children take up the literature profession under any circumstances. And, for that reason, the widow, Mrs. Ryuko Hasegawa, was not able to educate her children in such a way she might have liked and in such a way that she could prove that the children were as great as their father as literators.

"Tokoku Kitamura," a poet, was the first of the noted literary figures to pass away in the Meiji era. He committed suicide in the 27th year of that era, 1894, when he was 27 years old. He had a daughter three years old at the time of death. Miss Hanabusa Kitamura later married Mansaburo Horikoshi, a wealthy merchant. Her mother, Mrs. Kitamura, is still teaching at the Shinagawa Girls' High School, Tokyo.

The famous critic, "Chogyu Takayama," who only lived to the age of 37, also was survived by a three year old daughter and wife. The daughter is now 37 years old, and she and her aged mother are living a lonely life in Koshikawa, Tokyo. She has been sickly and weak ever since her childhood and there is nothing much in her life to speak of here.

MISS RURIKO

An unusually interesting figure is the daughter of the late "Dr. Bin Ueda, another Meiji literary star. Miss Ruriko, the daughter, was 15 when her father died. She was educated at Sacred Heart's School, Tokyo, a Roman Catholic institution. She took an advanced course at the school, specializing in English literature, passed the Education Department's test for secondary school teacher's certificate. For a time she taught at her alma mater, but her deep religious devotion led her to resolve to give herself up to the holy service by becoming a nun. Her mother, Mrs. Etsuko Ueda, also a devout Catholic, who was likewise teaching at the Sacred Heart's, did not favor her daughter's becoming a nun. Dr. Tatsuzo Ueda, an archaeologist of fame, had a heart to talk with Miss Ruriko, and finally succeeded in making her change her mind. Through the good offices of Dr. Torii and Mr. Manjiro Hasegawa, a writer, she was finally married to Mr. Yunchi Kaju, an employee of the South Manchuria Railway Company. The marriage took place in November, 1924, eight years after she lost her father. She is now happy, with a child, and is studying Japanese poetry, piano, "nagauta," and Japanese dances.

KAZUO HIROTSU

Mr. Kazuo Hirotsu, a contemporary novelist, is the son of "Ryuro Hirotsu, one of the shining stars of the Meiji literary history. His father, however, died only in October, 1928. Mr. Kazuo Hirotsu has been known as a novelistic critic for the last several years already. His elder brother, Toshio, who is apparently a vagabond, is also said to be a literary genius, although his works in Japanese are few.

"Dr. Oogai Mori," physician and writer of the Meiji era, has left behind him a large collection of good literary pieces and a genius-son in the person of Mr. Oto Mori, a Doctor of Medicine and professor at the Tokyo Imperial University.

"Oonichi Keigetsu," another eminent essayist of the Meiji-Taisho day, left behind him four sons and one daughter. The daughter, Aiko, now 27, is the wife of the artist Yoshio Someya. The two eldest sons are agricultural experts, the third son an engineer, and the fourth is still a student at one of the government "koto gakkou" (colleges). All are doing good work.

KOYO OZAKI'S FAMILY

"Koyo Ozaki," who wrote the "Konjiki Yasha" (Golden Demon) which created quite a sensation in the latter Meiji days, left a three-year old son, Natsumiko, when he died. This young man is now a graduate student at the Tokyo Imperial University, specializing in archaeology and psychology. He is also connected with the work of the League of Nations Office in Tokyo. He was quite recently married to Miss Toyono Kikuchi, daughter of the popular novelist, Yuhio Kikuchi. The go-between was Mr. Sasasami Iwaya, the father of our Japanese fairy tales. Unlike his father, Young Ozaki is a scholar type, according to Mr. Iwaya, the matchmaker. Two of Koyo Ozaki's daughters are married to naval officers, while the eldest is now no more.

WORTHY SON

"Doppo Kunikida," that zealous enthusiastic poet, has a worthy son, Mr. Tetuzo Sato (adopted) now 22, who is an artist. His painting, "Hope," a six-foot size oil painting of a woman, won a prize at the recent Teiten art contest. Doppo's eldest son, Torao, is a poet like his father, while his sisters are respectively a school teacher (Midori-san) and accountant (Haruko-san) at the Shochiku Theater in Asakusa.

One of the sons of "Futabate Hasegawa," mentioned at the beginning, has not forgotten the will of his father, and has avoided the writing profession. He is now in Brazil, South America, working for a British gas company. Another son, Kenzo, is reported to have died a few years ago, after finishing the commercial course at Rikkyo Uni-

